

巻 頭 言

歯学部長 宮崎 隆

現在我が国では大学教育の質保障が求められ、医療職を教育する大学においては卒業時の臨床能力の担保が求められています。すなわち、学生が歯学部を卒業して国家試験に合格、歯科医師免許を取得して卒後研修にスムーズに移行できるように、学部教育終了時に一定の臨床能力を取得していることが求められています。この臨床能力は本学では独自の**コンピテンシー**として公表されており、これをもとにした卒業要件が**ディプロマポリシー**として定められています。そして、6 年間で学修する内容が**カリキュラムポリシー**として設定されており、この課程で学ぶ人材を入学者として迎える指針が**アドミッションポリシー**です。このように、学部教育は 3 つのポリシーに則って進められています。

諸君らは本歯学部のアドミッションポリシーに合致して入学を許可され、カリキュラムポリシーに則って 6 年間の課程を学びます。ゴールのディプロマポリシー（修得すべきコンピテンシー）を理解したうえで、各学年のカリキュラムを着実にこなしてください。そのガイドになるのがこのシラバスです。

我が国は急速な少子高齢化や歯科疾病構造の変化、さらには国民の医療ニーズの多様化により、社会が求める歯科医師像が変わってきました。特に超高齢社会に突入し、摂食や呼吸など生命に直結し、味覚、発音、表情づくりなど生活の質に係わる歯科医療の重要性が益々高まり、国民が安全にそして安心して歯科医療を受けることが求められています。歯科医師としての専門職を全うするための知識・技能・態度について、全国の歯科大学・歯学部における標準的な内容が、**歯学教育モデル・コア・カリキュラム**として制定され、平成 29 年度から改訂されています。

本学では歯学教育モデル・コア・カリキュラムに沿った内容のカリキュラムが全体の 6 割程度の内容で、残りの 4 割は本学の特徴あるカリキュラムを導入しています。とりわけ本歯学部では、医師を始めとする幅広い医療職とチームを組んで国民の健康長寿に貢献できる質の高い歯科医師を育成するために、医系総合大学の環境を生かして、他大学にはないユニークな**チーム医療をベースとした歯学教育**を導入しています。

本歯学部のカリキュラムの柱は、「社会と歯科医療・チーム医療コース」「オーラルフィジッシャンのコース」および「歯科臨床コース」の 3 つのコースになっています。

「**社会と歯科医療・チーム医療コース**」は本歯学部の最大の特徴の一つです。将来チーム医療に参画できる医療人を育成するために、大学全体が医・歯・薬・保健医療学部間の学部連携教育（チーム医療教育）に力を入れています。本歯学部生は、1 年次から学年の進行に応じて、他学部の学生と一緒に学部連携 PBL 等で共通のテーマをもとに医学・医療の基本とチーム医療の基本を学びます。5 年次には 4 学部の学生がチームを作り、医学部附属病院の多くの病棟を利用して、**学部連携病棟実習**に従事します。国内はおろか世界でも類の無い実習です。また、低学年から**在宅医療**にかかわるチーム医療教育も導入されています。

そのほかに、歯学部単独で、歯科医師会との協力・連携のもとに、**地域連携歯科医療実習**が必修化されています。初年次には山梨県の開業歯科医院を訪問し、3 年次には首都圏を中心に開業歯科医院での地域医療に関する体験実習を履修します。5 年次には在宅歯科医療の見学や地域における医療連携についても体験します。

現在の歯科医療では口腔の病態と全身との関わりや、高齢患者や全身疾患を有する患者など特別な対応が必要な患者への歯科的対応が重要になってきました。生命に直結した口腔機能に関するリハビリテーションの重要性も高まっています。「**オーラルフィジッシャングループ**」では基礎医学や口腔科学を口腔医学の視点で学習し、歯科医療に密接した臨床医学との関連を含めて、命を救う歯科医師、命の尊厳を守る歯科医師をめざして学習します。

「**歯科臨床コース**」では、低学年の入門科目から、一般的な歯科臨床に関する知識と技術を体系的に学びます。そして「**社会と歯科医療・チーム医療コース**」や「**オーラルフィジッシャングループ**」で体験し学んだことを統合化し、社会が求めている臨床能力の高い歯科医師を目指して学習します。

医学・歯学教育においては、医療現場で患者と触れ合う**臨床実習**が最も重要であるのは言うまでもありません。本学では、従来 4 年次終了時に**共用試験**を受験して、臨床実習に進む確かな知識・技能・態度を有していることを確認後、5 年次の臨床実習に従事します。新 4 年生からは共用試験の受験時期を早め、4 年次の 3 学期から臨床実習を開始します。臨床実習は、歯科病院の専門診療科だけでなく、医学部附属病院の歯科・歯科口腔外科、昭和大学口腔ケアセンター、昭和大学頭頸部腫瘍センターなどの施設を利用して行われます。本学では実習や演習で学習した内容をポートフォリオでまとめて、成長の記録をとるようにしています。歯科病院の臨床実習では**診療参加型臨床実習**に力を入れ、学生は自験した症例を中心に、**電子ポートフォリオ**を利用して学習効果を高めています。本学では総合的な臨床能力を評価する独自の **iOSCA** を従来 5 年次年度末に実施していましたが、新 5 年生以降は 6 年次の必修選択実習後に実施する予定です。

現在、各分野で国際化が急速に進められています。医療には国家の政策が影響していますが、一方でグローバルスタンダードに対応した教育や診療が求められています。本歯学部においては、英語教育や自己学習の環境を整備して、学生の英語コミュニケーション能力の向上を目指してきました。そして海外の一流大学と交流プログラムを締結し、夏季休暇や春季休暇等を利用した**海外研修**や6年次の**海外選択実習**に多くの学生が参加して成果をあげてきました。今年度も多くの学生がチャレンジすることを期待しています。

2 年次ならびに 3 年次の**研究入門**や6年次の選択実習では、学生が希望する基礎系研究室で研究に従事し、その成果を学内外で公表することも推奨しています。大学院科目を学部学生が履修できる**マルチドクター制度**もありますので、こちらにも多くの学生が参加して、研究マインドを育成するとともに、将来の大学院進学を含めて歯科医療の進歩に対する夢を持って欲しいと思います。

さて、シラバスは羅針盤ですが、主役は学生です。このシラバスを参考に、毎日、各科目で、何を学ぶのか、そして今日の自分は昨日と異なり、これができるようになった、賢くなった、成長したと実感できるようにして欲しいものです。卒業時に**コンピテンシー**を持って社会に羽ばたきましょう。千里の道も一歩から。日々を大事にして将来に夢を持って頑張ってください。